

〔資料紹介〕七代目豊沢広助『義太夫 節と手順』

飯 島 満

(一)

文楽の三味線弾き七代目豊沢広助（1878-1957）が弾き語りで録音をはたした義太夫節浄瑠璃の曲節集である。七代目広助による義太夫節解説は、他に文化財保護委員会の作成にかかる昭和30年（1955）の録音が存在する。本稿で取り上げるのは、10インチSPレコード全13枚（上巻5枚・下巻8枚）に収められた戦前の実演集（収録時間80分弱）である。

SPレコード『義太夫 節と手順』は、『音盤目録Ⅰ』において東京文化財研究所（『音盤目録Ⅰ』刊行当時は東京国立文化財研究所）の所蔵が既に公表されている。どのような曲節が取り上げられているのか、その概略も同目録に記載されている。しかしながら、実演内容の詳細はこれまで紹介されることがなかった。浄瑠璃の曲節解説では、どのような作品のどの部分が実例として引用されているのかといった情報が、本来は欠かせない。本稿で報告する所以である。ちなみに、現時点において『義太夫 節と手順』全13枚の所蔵を公表している機関は、東京文化財研究所だけである。国立文楽劇場の所蔵も上巻5枚のみであることから、現存数が稀少な音盤といえるのだろう。

なお、東京文化財研究所所蔵SPに言及する場合には、その所蔵整理番号を【 】内に記すこととする。また、文字情報を引用する際には、原則として当用漢字は通行の字体を用いることとする。

(二)

本稿で取り上げるレコードの名称『義太夫 節と手順』は、レーベルの記載に拠る。下巻1枚目A面を例に挙げれば「義太夫／節と手順／下巻（一）／七世 豊沢広助」【2-267A】とある。

ただ、気になる点がひとつある。これは広助が吹き込んだ音盤に限ったことではないのだが、例えばレーベルに「義太夫／御所桜三段目／弁慶上使の段（一）／弾語り 七世豊沢広助」【3-120A】とあった場合、音盤の収録内容を『御所桜堀川夜討』三段目「弁慶上使の段」などとするのが一般的である。つまりレーベル記載中の「義太夫」は音曲の種類を示すものとみなし、収録内容の題名には加えないことが多いのである。レーベルの記載内容を根拠にするのならば、『義太夫 節と手順』ではなく、『節と手順』とするのが穏当であるとも考えられる。『国立文楽劇場所蔵 義太夫節SPレコード目録』が名称を『節と手順』としているのは、そうした方針に基づく判断であろう。

録音の名称について、本稿では『音盤目録Ⅰ』と同様、『義太夫 節と手順』を採用している。『節と手順』が正式名称であった可能性を認めた上で、それだけでは茫漠とした印象を免れないのではないかとの配慮からである。

本音盤の制作は松葉家音譜頒布会、製造が邦楽同好会である。これも音盤のレーベル記載に拠る。

収録年月日は、東京文化財研究所蔵『安原レコード覚書』¹⁾に拠れば、上巻が昭和16年（1931）9

月17日、下巻が翌17年11月30日である。その根拠は示されていない。

ところで『義太夫 節と手順』には、解説書の類が存在していたらしい。録音の冒頭、上巻1枚目A面【2-262A】で広助自身が次のように述べているからである。

ヲクリの弾き方から吹込みますが、ヲクリにも東風と西風とがございます。また、世話物の弾き方と時代物の弾き方とも違いますが、レコードに制限がございますので、印刷物に詳しく説明することといたしまして、多少の簡単となりますが、ご容赦をねがいます。

ことによると「印刷物」なるものに収録年等の情報が記されていたのではあるまいか。現時点において、本音盤に関連付けられた「印刷物」を確認していない。同時代資料に拠る裏付けを欠く以上、厳密には収録年月日未詳とすべきなのかも知れない。

(三)

七代目豊沢広助は、何らかの考え方のもと、義太夫節の曲節を分類し、その配列も含め『義太夫節と手順』としてまとめあげたものと想像される。しかしながら、前述したように解説書と思われる「印刷物」なるものを欠く。同一名称の曲節が、離れて紹介されている事例もあり（引用された作品は異なる）、広助が考えていたであろう分類の真意を、残された録音だけでは十分に量ることができない。

また、全体が上巻5枚10面（【2-262A】から【2-266B】）と下巻8枚16面（【2-267A】から【2-274B】）で構成されていることは、レーベル表記から自明である。しかしながら、全体の配列を見る限りにおいて、上巻と下巻で浄瑠璃の曲節を大きく二つに分類していたのかは判然としない。大方のご教示を乞う次第である。

七代目広助は相当数のSPレコードを吹き込んでいる。その多くが弾き語りであり、なおかつ抜粋演奏ではなく、ほとんどが一段を通した複数枚のまとまった録音となっている（七代目広助が吹き込んだレコードの全体像については改めて報告する）。

では、広助の弾き語りレコードは、そもそも何を目途に制作されたものなのか。文楽では、たとえ人形を伴わない素浄瑠璃であっても、三味線弾き（あるいは浄瑠璃太夫）単独の弾き語りは鑑賞の対象にはならない。実際のところ、広助の弾き語りは、浄瑠璃として聴いて面白いものであるとは、お世辞にも言いにくい。おそらく、広助による一連のレコードは、義太夫節浄瑠璃を稽古している素人向けに、いわばお手本として制作されたものなのであろう。同様に『義太夫 節と手順』も、素人からの需要に応ずるべく企図されたものだったのでないだろうか。

義太夫節の曲節の実例として『義太夫 節と手順』で引用される作品は、今なお上演される知名なものが大半を占めている。学術目的ではなく、あくまで素人を主な対象とした実用的な義太夫節の曲節集なのだとしたら、広く知られた作品から実例を引用するというのは、けだし尤もなことと言えるのではないだろうか。勿論、そのことが本音盤の価値を減ずることに繋がる訳ではない。

広助が『義太夫 節と手順』で目指していたのは義太夫節で使われる曲節の網羅ではなかったこと

は、収録時間からも明らかである。しかしながら、「レコードに制限がございます」との発言は、単なる言い訳と解すべきではないのだろう。時間的な制限とは、吹き込むことのできる曲節の数の制限でもある。義太夫節の曲節として何を吹き込むべきなのか、その精査は録音に臨むまでには済ませていたはずである。『義太夫 節と手順』は、仮に素人を対象とした教則的なレコードだったとすればなおさらに、義太夫節とは何かとの命題に対する一人の文楽三味線弾きの回答でもあったのだろう。

参考文献

『音盤目録 I』東京国立文化財研究所 昭和41年3月30日

『国立文楽劇場所蔵 義太夫節SPレコード目録』独立法人日本芸術文化振興会 平成21年1月5日

飯島満「資料紹介 二代目鶴沢清八『義太夫節の種類と解説』」『無形文化遺産部プロジェクト報告書 無形文化財の伝承に関する資料集』東京文化財研究所無形文化遺産部 平成23年3月30日

飯島満『〔資料紹介〕七代目豊沢広助『義太夫の種類と曲節』 - 無形文化遺産部プロジェクト報告 -』東京文化財研究所無形文化遺産部 平成28年3月30日 http://www.tobunken.go.jp/ich/wp-content/uploads/PJ01_2016.pdf

《注》

- 1) 義太夫節浄瑠璃を中心とする古典芸能のSPレコード収集家として知られる安原仙三(1908-1955)自筆のディスコグラフィ。拙稿「吉田兵次「とやぶれ」」(『無形文化遺産研究報告』第1号 2007年3月)参照。

七代目豊沢広助『義太夫 節と手順』収録一覧 凡例

七代目豊沢広助の弾き語りによる SP レコード『義太夫 節と手順』全 13 枚（上巻 5 枚 10 面・下巻 8 枚 16 面）に録音された義太夫節浄瑠璃の曲節について、その詳細を収録一覧として報告する。

報告の内容は、曲節の名称、引用された作品名、浄瑠璃詞章、音盤番号である。

上巻 2 枚目 A 面の最後と同 B 面の最初に収録されている録音内容を、事例として次に掲出する。

21 ウレイ三重カカリ 『太平記忠臣講釈』喜内住家 【2-264A [6402]】
「しほれ勇んで」

22 ウレイ三重 『伊賀越道中双六』沼津 【2-264B [6403]】
「合はず火影は親子の名残り。跡に見捨てて」

- 整理の便宜上、曲節名の前に全体の通し番号を付している。
- 配列は実演の収録順とする。ただし、レーベル表記と収録内容が合致していない盤がある。正しい順番は『音盤目録 I』が示すとおりであり、本収録一覧もこれに従っている。
- 曲節が引用されている作品名は、文楽現行曲については、通行の名称を採用している。
- 【 】内は、【東京文化財研究所の整理番号 [音盤の製品番号]】である。

■補記■

SP『義太夫 節と手順』には、印刷物（解説書の類）が付属していたものと推測されている。その実物は確認していない。曲節名・浄瑠璃詞章、およびそれらの表記については、依拠すべき紙資料を欠く。いずれも、録音の聞き取り等に基づく報告となる。少なからぬ誤認や誤表記を懸念している。

本音盤の盤面状態は、一部にヒビ・カケ等があるものの、聞き取りに決定的な支障をもたらすようなものではなかった。ところが、収録時の機材の設置位置あるいは録音機器自体に問題があったのか、良好な再生音を得られない盤（下巻【2-267A】等）がある。『音盤目録 I』で一部の曲節名が未詳扱いとなっているのはそのためであろう。必要に応じて、七代目広助が戦後に録音した LP 版『義太夫の曲節と解説』を参照している。

『音盤目録 I』では、例えば【2-269B】最後と【2-270A】最初の「宮園」など、同じ曲節名が連続していることがある。これは一つの曲節が盤をまたいで録音されていたからであって、2種類の「宮園」が収録されているわけではなかった。こうした場合、本収録一覧では双方の音盤番号を列挙している。

1	四段目のヲクリ —三味線演奏のみ—		【2-262A [6399]】
2	四段目のヲクリ —三味線演奏のみ—	『本朝廿四孝』十種香	【2-262A [6399]】
3	駒太夫のヲクリ 「一間に入りにつり」		【2-262A [6399]】
4	小ヲクリ 「奥は」	『仮名手本忠臣蔵』花籠	【2-262B [6400]】
5	ウキヲクリ 「結ぶは」	『絵本太功記』尼ヶ崎	【2-262B [6400]】
6	キンヲクリ 「間毎に」	『玉藻前囃袂』道春館	【2-262B [6400]】
7	武者ヲクリ 「一間へ」	『一谷嫩軍記』熊谷陣屋	【2-262B [6400]】
8	林清ヲクリ 「杖を我が子を力草」	『卅三間堂棟由来』平太郎住家	【2-262B [6400]】
9	林清ヲクリ 「町の横町とぼとぼと酒屋の」	『迎駕籠野中井戸』聚楽町	【2-262B [6400]】
10	色ヲクリ 「仏間をさして」	『加賀見山旧錦絵』長局	【2-262B [6400]】
11	中ヲクリ 「御菩提」	『仮名手本忠臣蔵』塩冶判官切腹	【2-263A [6401]】

- | | | | |
|----|--------------------------------|-------------------|-----------------|
| 12 | 網戸ヲクリ
「杖を」 | 『楠昔噺』 碓拍子 | 【2-263A [6401]】 |
| 13 | 網戸ヲクリ
「くだくだ」 | 『染模様妹背門松』 質店 | 【2-263A [6401]】 |
| 14 | フシヲクリ
—三味線演奏のみ— | 『仮名手本忠臣蔵』 道行旅路の嫁入 | 【2-263A [6401]】 |
| 15 | 相の山ヲクリ
「襖」 | 『紙子仕立両面鑑』 大文字屋 | 【2-263A [6401]】 |
| 16 | 引取り三重
「辺りを照らす障子の内。影を隠すや」 | 『仮名手本忠臣蔵』 一力茶屋 | 【2-263A [6401]】 |
| 17 | シコロ三重
「足にまかせて」 | 『伊賀越道中双六』 沼津 | 【2-263A [6401]】 |
| 18 | 上三重
「たどり行く」 | 『壺坂観音靈驗記』 壺坂寺 | 【2-263B [6402]】 |
| 19 | 大三重
「尽きぬ思ひにせき兼ねる。涙の玉の」 | 『菅原伝授手習鑑』 道明寺 | 【2-263B [6402]】 |
| 20 | ウレイ三重
「浮世なれ」 | 『仮名手本忠臣蔵』 花籠 | 【2-263B [6402]】 |
| 21 | ウレイ三重カカリ
「しほれ勇んで」 | 『太平記忠臣講釈』 喜内住家 | 【2-263B [6402]】 |
| 22 | ウレイ三重
「合はす火影は親子の名残り。跡に見捨てて」 | 『伊賀越道中双六』 沼津 | 【2-264A [6403]】 |

- | | | | |
|-------|----------------------------|-----------------|-----------------|
| 23 | ウレイワリ三重
「心残して」 | 『仮名手本忠臣蔵』山科閑居 | 【2-264A [6403]】 |
| <hr/> | | | |
| 24 | キオイ三重
「真一文字に」 | 『加賀見山旧錦絵』長局 | 【2-264A [6403]】 |
| <hr/> | | | |
| 25 | ハリマ
「何とやらして何とやら」 | | 【2-264A [6403]】 |
| <hr/> | | | |
| 26 | ハリマ
「仏果を得よと言ひければ」 | 『仮名手本忠臣蔵』早野勘平切腹 | 【2-264A [6403]】 |
| <hr/> | | | |
| 27 | ハリマ
「衣紋正しく出向かひ」 | 『玉藻前囃袂』道春館 | 【2-264A [6403]】 |
| <hr/> | | | |
| 28 | ハルフシ
「相模は障子押し開き」 | 『一谷嫩軍記』熊谷陣屋 | 【2-264B [6404]】 |
| <hr/> | | | |
| 29 | ハルフシ
「あでやかなりし其の風情」 | 『本朝廿四孝』十種香 | 【2-264B [6404]】 |
| <hr/> | | | |
| 30 | フシハル
「夫の帰りの遅さよと。待つ間程なく」 | 『一谷嫩軍記』熊谷陣屋 | 【2-264B [6404]】 |
| <hr/> | | | |
| 31 | ユリナガシ
「目さへ不自由な暮らしなり」 | 『近頃河原の達引』堀川 | 【2-264B [6404]】 |
| <hr/> | | | |
| 32 | ユリキン
「雪かき集め」 | 『伊賀越道中双六』岡崎 | 【2-264B [6404]】 |
| <hr/> | | | |
| 33 | ミツユリ
「面目涙に暮れみたる」 | 『桂川連理柵』帯屋 | 【2-264B [6404]】 |
| <hr/> | | | |

- 34 四ツユリ 『菅原伝授手習鑑』 寺子屋 【2-264B [6404]】
「散りぬる命是非なくも」
-
- 35 五ツユリ 『本朝廿四孝』 勘助住家 【2-265A [6405]】
「ままならぬこそ恨みなれ」
-
- 36 セツユリ 『妹背山婦女庭訓』 杉酒屋 【2-265A [6405]】
「言はうとすれど胸せまり」
-
- 37 九ツユリ 『義経千本桜』 鮎屋 【2-265A [6405]】
「身をふるはして泣きければ」
-
- 38 行儀 『仮名手本忠臣蔵』 早野勘平切腹 【2-265A [6405]】
「身をへり下り述べければ」
-
- 39 ハツクリ 『一谷嫩軍記』 熊谷陣屋 【2-265A [6405]】
「懐かしの我が子やと」
-
- 40 ハツクリ 『仮名手本忠臣蔵』 山科閑居 【2-265A [6405]】
「婿殿に進ぜたさ」
-
- 41 上ハツクリ 『日蓮聖人御法海』 勘作住家 【2-265B [6406]】
「性根正体なかりしが」
-
- 42 上キン 『一谷嫩軍記』 熊谷陣屋 【2-265B [6406]】
「おさらばの声は涙にかきくもり。別れて」
-
- 43 上キン 『勢州阿漕浦』 平次住家 【2-265B [6406]】
「冥途へ急ぐ一文字」
-
- 44 ハツミ 『伊賀越道中双六』 沼津 【2-265B [6406]】
「用意の」
-

- | | | | |
|-------|---------------------------|---------------|-----------------|
| 45 | 江戸ハツミ
「まだ十歳の腕白ざかり」 | 『蝶花形名歌島台』小坂部館 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 46 | モロハツミ
「股立ち」 | 『蝶花形名歌島台』小坂部館 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 47 | 投込
「死骸を庭へ投げ捨てたり」 | 『伊賀越道中双六』岡崎 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 48 | セリ込
「伊勢路にはやる」 | 『勢州阿漕浦』平次住家 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 49 | 勇込
「イザ御出と勇み立ち」 | 『箱根靈験壁仇討』箱根滝 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 50 | タタキ
「今を限りの空結ひに」 | 『加賀見山旧錦絵』長局 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 51 | タタキ
「枕に伝ふ露涙」 | 『近頃河原の達引』堀川 | 【2-265B [6406]】 |
| <hr/> | | | |
| 52 | タタキ
「ぬくもりの冷めぬを待てど身は寒き」 | 『染模様妹背門松』質店 | 【2-266A [6407]】 |
| <hr/> | | | |
| 53 | タタキ
「主ある女子の不義同然」 | 『仮名手本忠臣蔵』山科閑居 | 【2-266A [6407]】 |
| <hr/> | | | |
| 54 | 表具
「小身者の悲しさは」 | 『仮名手本忠臣蔵』一力茶屋 | 【2-266A [6407]】 |
| <hr/> | | | |
| 55 | 表具
「薄き親子の契りやと」 | 『近頃河原の達引』堀川 | 【2-266A [6407]】 |
| <hr/> | | | |

- 56 文弥 『伽羅先代萩』 御殿 【2-266A [6407]】
「忠と教へる親鳥の」
-
- 57 長地 『生写朝顔話』 宿屋 【2-266A [6407]】
「嘆きの数も重なりて。埒失ふ目なし鳥」
-
- 58 ニシキ 『御所桜堀川夜討』 弁慶上使 【2-266A [6407]】
「大振袖の染模様」
-
- 59 ニシキ 『天網島時雨炬燵』 紙屋内 【2-266A [6407]】
「差し出す一包み」
-
- 60 本フシ 『天網島時雨炬燵』 紙屋内 【2-266B [6408]】
「うたた寝のあたる炬燵の小春時」
-
- 61 ワリミツフシ 『天網島時雨炬燵』 紙屋内 【2-266B [6408]】
「内に情ぞこもりける」
-
- 62 ヒロイ 『傾城阿波の鳴門』 十郎兵衛住家 【2-266B [6408]】
「盆に白米の志」
-
- 63 道具屋 『伊勢音頭恋寝刃』 油屋 【2-266B [6408]】
「北六万野が取り取りに。とさん盃硯蓋」
-
- 64 スエ 『太平記忠臣講釈』 喜内住家 【2-266B [6408]】
「奥歯もれくる謡声」
-
- 65 スエテ 『艶姿女舞衣』 酒屋 【2-266B [6408]】
「仰つて下さりませお二人様と。跡は言葉も涙なり」
-
- 66 五重下り 『伊賀越道中双六』 沼津 【2-267A [01251]】
「男の病が治したさ」
-

- | | | | |
|-------|--|----------------|------------------|
| 67 | 五重カカリ
「涙留めて立ちかかり」 | 『仮名手本忠臣蔵』 山科閑居 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 68 | ツキフシ
「百万石にまさるぞや」 | 『絵本太功記』 尼ヶ崎 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 69 | 割込
「ほつと吹き出すばかりなり」 | 『菅原伝授手習鑑』 寺子屋 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 70 | トル
「門にしるしの」 | 『恋娘昔八丈』 城木屋 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 71 | スリアゲ
「思へば足の」 | 『増補忠臣蔵』 本蔵下屋敷 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 72 | スリサゲ
「母の臯月が七転八倒」 | 『絵本太功記』 尼ヶ崎 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 73 | 平家
「美しき御手を合せ。伏し拝み給ふ御有様。見奉れば気も」 | 『義経千本桜』 渡海屋 | 【2-267A [01251]】 |
| <hr/> | | | |
| 74 | 舞
「土佐の又平光起が」 | 『傾城反魂香』 将監閑居 | 【2-269A [01255]】 |
| <hr/> | | | |
| 75 | 舞
「二重の腰の白妙に」 | 『本朝廿四孝』 景勝下駄 | 【2-269A [01255]】 |
| <hr/> | | | |
| 76 | 冷泉
「立つる櫛の一本も」 | 『玉藻前曦袂』 道春館 | 【2-269A [01255]】 |
| <hr/> | | | |
| 77 | 江戸冷泉
「思ひつめたる憂き涙」 | 『加賀見山旧錦絵』 長局 | 【2-269A [01255]】 |
| <hr/> | | | |

- 78 伐害 『花上野誉碑』 志度寺 【2-269A [01255]】
「いかに頑是がないとても」
-
- 79 説経 『玉藻前囃袂』 道春館 【2-269A [01255]】・【2-268A [01253]】
「死出の晴れ着と姉妹が」
-
- 80 岡崎 『伊賀越道中双六』 岡崎 【2-268A [01253]】
「むざんや肌も郡山の」
-
- 81 海道 『太平記忠臣講釈』 喜内住家 【2-268A [01253]】
「祝ひし神送り」
-
- 82 海道 『仮名手本忠臣蔵』 道行旅路の嫁入 【2-268A [01253]】
「葛の細道もつれ合ひ」
-
- 83 鼓歌 『日蓮聖人御法海』 勘作住家 【2-268A [01253]】
「灯火眠るすきまより」
-
- 84 相の山 『恋女房染分手綱』 杓掛村 【2-268A [01253]】
「煙も立たぬ」
-
- 85 地藏経 『彦山権現誓助剣』 毛谷村 【2-268A [01253]】
「幼子の目もとしほしほ亡き母と」
-
- 86 江戸 『絵本太功記』 尼ヶ崎 【2-268B [01254]】
「呼ばはつて三衣にかはる陣羽織。小手臍当も優美の骨柄」
-
- 87 子守 『天網島時雨炬燵』 紙屋内 【2-268B [01254]】
「すかせばすやすや幼子を。ぬぶりながらも」
-
- 88 子守 『本朝廿四孝』 桔梗ヶ原 【2-268B [01254]】
「ここかしこ山を越えて里へいた」
-

- 89 小室節 『一谷嫩軍記』組討 【2-268B [01254]】
「御首携へて」
-
- 90 法下僧 『楠昔噺』徳太夫住家 【2-268B [01254]】
「扇を開き。七つになる子がいたいけなこと言ふた」
-
- 91 六法 『本朝廿四孝』勘助住家 【2-268B [01254]】
「我が日の本に一人の勇士」
-
- 92 ウラ六法 『菅原伝授手習鑑』寺子屋 【2-268B [01254]】
「門火にゑひもせず」
-
- 93 ウレイ六法 『迎駕籠野中井戸』聚楽町 【2-268B [01254]】
「小梅も梅の花散らし。やがて茜のしるべにて」
-
- 94 半太夫 『傾城恋飛脚』新口村 【2-267B [01252]】
「為かや今は冬枯れて」
-
- 95 半太夫 『紙子仕立両面鑑』大文字屋 【2-267B [01252]】
「お松といへど色かはる」
-
- 96 繁太夫 『心中天網島』河庄 【2-267B [01252]】・【2-269B [01256]】
「親方に堰かれて逢瀬も絶え。差し合いあつて今急に請け出すこともかなはず。南の元の親方と爰とにまだ五年ある年の内。人手に取られては私はもとより主は猶一分立たず。いつそ死んでくれうか死にませうと。引くに引かれぬ義理詰に。ふつと言ひ交はし首尾を見合せ合図を定め。抜けて出やう抜けて出やうといつ何時を最期とも」
-
- 97 組太夫 『八重霞浪花浜荻』新屋敷 【2-269B [01256]】
「それも誰故あき鹿の」
-
- 98 宮藺 『廓文章』吉田屋 【2-269B [01256]】・【2-270A [01257]】
「しのぶとすれどいにし糸の花は嵐のおとがひに」
-
- 99 ウレイハルフシ 『生写朝顔話』宿屋 【2-270A [01257]】
「呼び立つる。無残なるかな秋月の」
-

- | | | | |
|-----|-----------------------------------|-----------------|------------------|
| 100 | 半太夫ハフルシ
「子供すかしを今爰に。思ひ合はせし河内の国」 | 『楠昔噺』 碓拍子 | 【2-270A [01257]】 |
| 101 | ハツミハルフシ
「出づるも思ひ見る思ひ」 | 『和田合戦女舞鶴』 市若初陣 | 【2-270A [01257]】 |
| 102 | ウキフシ
「面憎さ」 | 『箱根靈験鬘仇討』 箱根滝 | 【2-270A [01257]】 |
| 103 | ウキフシ
「刀を鞘に納めた顔」 | 『花上野誉碑』 志度寺 | 【2-270A [01257]】 |
| 104 | 四ツフシ
「とぼとぼうかうか身を焦がす」 | 『心中天網島』 河庄 | 【2-270A [01257]】 |
| 105 | ウキキン
「同じ都も世につれて」 | 『近頃河原の達引』 堀川 | 【2-270A [01257]】 |
| 106 | ウキキン
「箆筒長持鏡台の」 | 『碁太平記白石噺』 新吉原揚屋 | 【2-270B [01258]】 |
| 107 | ハリキン
「相撲と能の常舞台」 | 『関取千両幟』 猪名川内 | 【2-270B [01258]】 |
| 108 | 中キン
「包むに余る小風呂敷」 | 『加賀見山旧錦絵』 長局 | 【2-270B [01258]】 |
| 109 | ワリキン
「涙の雨。身に降り」 | 『勢州阿漕浦』 平次住家 | 【2-270B [01258]】 |
| 110 | 江戸キン
「さしもの平山あしらひかね」 | 『一谷嫩軍記』 熊谷陣屋 | 【2-270B [01258]】 |

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------------------|------------------|
| 111 | 説経キン
「心は先へ」 | 『染模様妹背門松』 質店 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 112 | ユリキン
「雪かき集め」 | 『伊賀越道中双六』 岡崎 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 113 | ノルキン
「軍配取つて一戦に」 | 『絵本太功記』 妙心寺 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 114 | ウラキン
「額を土にうづくまる」 | 『花上野誉碑』 志度寺 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 115 | スエキン
「見返れば」 | 『仮名手本忠臣蔵』 道行旅路の嫁入 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 116 | ハツミ
「大磯さしてかけり行く」 | 『箱根靈験壁仇討』 箱根滝 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 117 | ノリハツミ
「言ひ捨ててこそかけり行く」 | 『八陣守護城』 政清本城 | 【2-270B [01258]】 |
| <hr/> | | | |
| 118 | 鹿踊り
「よしあしの」 | 『恋女房染分手綱』 沓掛村 | 【2-271A [01259]】 |
| <hr/> | | | |
| 119 | 鹿踊り
「言ふも更なる繁華の地」 | 『恋娘昔八丈』 城木屋 | 【2-271A [01259]】 |
| <hr/> | | | |
| 120 | タタキ
「部屋には上品奥二階」 | 『碁太平記白石噺』 新吉原揚屋 | 【2-271A [01259]】 |
| <hr/> | | | |
| 121 | ハリタタキ
「泣く泣く取り出す緋緘の」 | 『絵本太功記』 尼ヶ崎 | 【2-271A [01259]】 |
| <hr/> | | | |

- | | | | |
|-------|----------------------|-----------------|------------------|
| 122 | 説経 | 『伽羅先代萩』 御殿 | 【2-271A [01259]】 |
| | 「何のたよりがあろぞいの」 | | |
| <hr/> | | | |
| 123 | ツナギ | 『傾城恋飛脚』 新口村 | 【2-271A [01259]】 |
| | 「馴れぬ旅路を忠兵衛が労る身さへ雪風に」 | | |
| <hr/> | | | |
| 124 | ツナギ | 『仮名手本忠臣蔵』 山科閑居 | 【2-271A [01259]】 |
| | 「かたへに待たせ只一人」 | | |
| <hr/> | | | |
| 125 | ツナギ | 『伽羅先代萩』 御殿 | 【2-271A [01259]】 |
| | 「風炉にかけたる茶飯釜」 | | |
| <hr/> | | | |
| 126 | 四ツオリ | 『碁太平記白石噺』 新吉原揚屋 | 【2-271A [01259]】 |
| | 「籠る情に宮城野が」 | | |
| <hr/> | | | |
| 127 | ヲロシ | 『一谷嫩軍記』 熊谷陣屋 | 【2-271A [01259]】 |
| | 「思ひがけなき御対面と。飛び退き」 | | |
| <hr/> | | | |
| 128 | ヲロシ | 『日吉丸稚桜』 駒木山城中 | 【2-271B [01260]】 |
| | 「襖左右に押し開かせ悠々」 | | |
| <hr/> | | | |
| 129 | ユリフシ | 『本朝廿四孝』 十種香 | 【2-271B [01260]】 |
| | 「御経読誦のりんの音」 | | |
| <hr/> | | | |
| 130 | ユリフシ | 『義経千本桜』 鮎屋 | 【2-271B [01260]】 |
| | 「知らぬ道をば行き迷ふ」 | | |
| <hr/> | | | |
| 131 | 大オトシ | 『絵本太功記』 尼ヶ崎 | 【2-271B [01260]】 |
| | 「雨か涙の汐境。浪立ち騒ぐごとくなり」 | | |
| <hr/> | | | |
| 132 | 中オトシ | 『菅原伝授手習鑑』 佐太村 | 【2-271B [01260]】 |
| | 「有様は物狂はしき風情なり」 | | |
| <hr/> | | | |

- | | | | |
|-------|---|---------------|------------------|
| 133 | 文弥オトシ
「涙に誠あらはせり」 | 『絵本太功記』 尼ヶ崎 | 【2-271B [01260]】 |
| <hr/> | | | |
| 134 | 上総オトシ
「門火と。門火を頼み頼まるる」 | 『菅原伝授手習鑑』 寺子屋 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 135 | 筑前オトシ
「義女の鑑と末の世に錦と替る麻の衣女鑑と知られける」 | 『加賀見山旧錦絵』 長局 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 136 | キオイオトシ
「庭に転びつ這ひ廻り抱きしめたる我が身も雪と消ゆべき風情なり」 | 『伊賀越道中双六』 岡崎 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 137 | 三ツ間オトシ
「乳母も衣裳を着飾つて」 | 『花上野誉碑』 志度寺 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 138 | 四ツ間オトシ
「共に涙にむせ返り」 | 『玉藻前囃袂』 道春館 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 139 | 五ツ間オトシ
「娘の手前。面目ない」 | 『近頃河原の達引』 堀川 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 140 | 四ツクリオトシ
「跡を見送り声を上げ」 | 『心中天網島』 河庄 | 【2-272A [01261]】 |
| <hr/> | | | |
| 141 | セキオトシ
「声曇らせば初花姫」 | 『玉藻前囃袂』 道春館 | 【2-272B [01262]】 |
| <hr/> | | | |
| 142 | ハツミオトシ
「お礼は口へは出ぬはいな」 | 『玉藻前囃袂』 道春館 | 【2-272B [01262]】 |
| <hr/> | | | |
| 143 | ウキユリ
「振りの肌着に玉の汗」 | 『新版歌祭文』 野崎村 | 【2-272B [01262]】 |
| <hr/> | | | |

- 144 ツキユリ 『紙子仕立両面鑑』大文字屋 【2-272B [01262]】
「泣きにいぬるも哀れなり」
-
- 145 六ツユリ 『伽羅先代萩』御殿 【2-272B [01262]】
「骨も砕くる思ひなり」
-
- 146 ウキキンユリ 『仮名手本忠臣蔵』山科閑居 【2-272B [01262]】
「帽子まばゆき風情なり」
-
- 147 クルマユリ 『天網島時雨炬燵』紙屋内 【2-272B [01262]】
「恨み嘆くぞ誠なる」
-
- 148 ハネユリ 『一谷嫩軍記』熊谷陣屋 【2-273A [01263]】
「千々に砕くる物思ひ」
-
- 149 オルユリ 『新版歌祭文』野崎村 【2-273A [01263]】
「何と返事もないじやくり」
-
- 150 キオイユリ 『薫樹累物語』埴生村 【2-273A [01263]】
「納戸へこそは入りにけり」
-
- 151 祭文 『染模様妹背門松』質店 【2-273A [01263]】
「高いも低いも姫御前の」
-
- 152 祭文 『恋娘昔八丈』鈴ヶ森 【2-273A [01263]】
「不憫やお駒は夫の為。かかる憂き身の縛り縄。首にかけたる水晶の。数珠の数さへ消えてゆく。屠所の羊の歩みより」
-
- 153 ミダレ 『伊賀越道中双六』沼津 【2-273B [01264]】
「平作は千鳥足。しんどが利になる蒟蒻の。砂になるかと悲しさに」
-
- 154 音頭 『花雲佐倉曙』下総屋 【2-274A [01265]】
「千じよや万じよの鳥追いが参りて」
-

- 155 伊勢音頭 〔勢州阿漕浦〕平次住家 【2-274A [01265]】
「故郷は都ここはまた」
-
- 156 伊勢音頭 〔勢州阿漕浦〕平次住家 【2-274A [01265]】
「かかる嘆きの胴中へ庄屋を案内に打ち連れて。平瓦の治郎蔵が」
-
- 157 外記 〔卅三間堂棟由来〕平太郎住家 【2-274A [01265]】
「母は今を限りにて」
-
- 158 外記 〔大江山酒呑童子〕保昌館 【2-274A [01265]】
「ヤアヤア怪童。尋ぬる母は爰にあり。とくとく出でよと呼ばわつたり」
-
- 159 シヤリセン 〔仮名手本忠臣蔵〕山科閑居 【2-274A [01265]】
「妻や娘はあるにもあられず」
-
- 160 雛形節 〔仮名手本忠臣蔵〕山科閑居 【2-274A [01265]】
「わしや恥かしいとなまめかし」
-
- 161 長持 〔日蓮聖人御法海〕勘作住家 【2-274A [01265]】
「そこよここよと駆け廻り」
-
- 162 大マハシ 〔傾城恋飛脚〕新口村 【2-274B [01266]】
「落人の」
-
- 163 九ツヲクリ 〔伊賀越道中双六〕岡崎 【2-274B [01266]】
「着せて」
-
- 164 ハリヲクリ 〔恋娘昔八丈〕城木屋 【2-274B [01266]】
「とぼとぼうかうか身を焦がす奥へ」
-
- 165 ハツミヲクリ 〔桂川連理柵〕帯屋 【2-274B [01266]】
「色事師打ち連れ」
-

- 166 ニツユリ 『奥州安達原』 環宮明御殿 【2-274B [01266]】
「身に堪ゆるは血筋の縁」
-
- 167 クラサハフシノオクリ 『摂州合邦辻』 合邦庵実 【2-274B [01266]】
「しんたる夜の道」
-
- 168 宮戸ヲクリ 『天網島時雨炬燵』 紙屋内 【2-274B [01266]】
「すぐに仏なり」
-
- 169 土佐節 『船弁慶』 【2-274B [01266]】
「西塔の武蔵坊弁慶は其の頃都にありけるが。五条の橋には人を悩ます曲者ありと聞きしかば」
-

Report on *Gidayu no fushi to tejun* by TOYOZAWA Hirosuke VII

IJIMA Mitsuru

TOYOZAWA Hirosuke VII (1878 – 1957) is a *shamisen* player of *gidayu-bushi joruri* (*shamisen* music used in *bunraku*, one of the representative classic performing arts of Japan). *Gidayu no fushi to tejun* (Demonstrations of representative melody patterns used in *gidayu-bushi joruri*) is a set of SP records (13 records) in which Hirosuke plays the *shamisen* and sings the basic melody patterns of *gidayu-bushi joruri*. This set is said to have been recorded in September 1931 and November 1932.

That this set of records is included in the collection of the Institute has already been made public in a list published in 1966, but the contents of the records have not yet been reported in detail. The present report includes the names of the melody patterns performed by Hirosuke, the specific texts of the repertoires from which the names are taken and the names of the repertoires themselves.

This set is a valuable audio material that provides information about the transmission of *gidayu-bushi joruri* before World War II.